

# 平安京右京六条二坊一町跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 平安京右京六条二坊一町跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、中京消防署新四条消防出張所（仮称）整備工事に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成27年9月

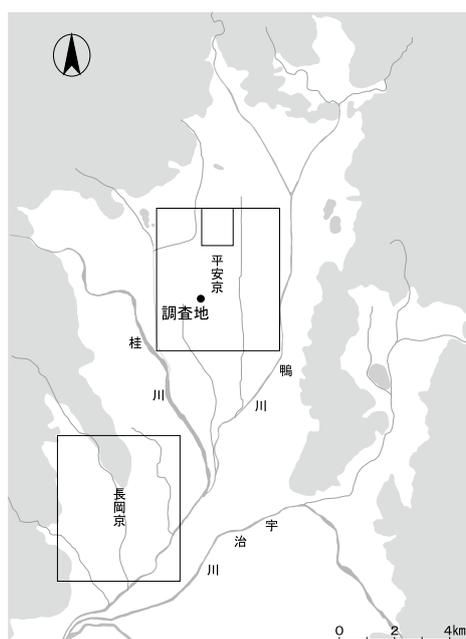
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |  |
|----------|--|
| 1 遺 跡 名  | 平安京跡（文化財保護課番号 14 H 595）                    |
| 2 調査所在地  | 京都市中京区壬生東高田町1番地の2                          |
| 3 委 託 者  | 京都市 代表者 京都市長 門川大作                          |
| 4 調査期間   | 2015年6月15日～2015年7月6日                       |
| 5 調査面積   | 104㎡                                       |
| 6 調査担当者  | 金島恵一・関広尚世                                  |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「西京極」を参考にし、作成した。   |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）             |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                             |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。          |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                       |
| 12 遺物番号  | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。                        |
| 13 本書作成  | 金島恵一・関広尚世                                  |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員および資料業務職員があたった。 |

(調査地点図)



# 目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境と立地	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	4
(1) 基本層序	4
(2) 遺構の概要	4
(3) 遺 構	4
4. 遺 物	9
(1) 遺物の概要	9
(2) 土器類	9
5. ま と め	10

# 図 版 目 次

図版1 遺構	1 調査区全景（東から）
	2 集石土坑5（東から）
図版2 遺構・遺物	1 集石土坑19（北東から）
	2 土器類

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：300）	2
図3	調査前全景（東から）	2
図4	作業風景（西から）	2
図5	遺構平面図（1：80）	5
図6	調査区北壁・西壁・東壁断面図（1：80）	6
図7	断割断面図（1：40）	7
図8	掘立柱列実測図（1：50）	7
図9	集石土坑5実測図（1：20）	7
図10	集石土坑19実測図（1：20）	7

## 表 目 次

表1	遺構概要表	4
表2	遺物概要表	9

# 平安京右京六条二坊一町跡

## 1. 調査経過

### (1) 調査に至る経緯

調査地は、京都市中京区壬生東高田町に位置する。当地に京都市消防局により中京消防署新四条消防出張所（仮称）の整備工事が計画された。京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「保護課」という）による試掘調査の結果、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて、発掘調査を実施することとなった。

### (2) 調査の経過

調査範囲は文化財保護課の指導により、調査地北半に東西13m、南北8m、面積約104㎡の調査区を設定した。調査は2015年6月15日から開始した。重機を用いて現代盛土の掘削を行ったが、

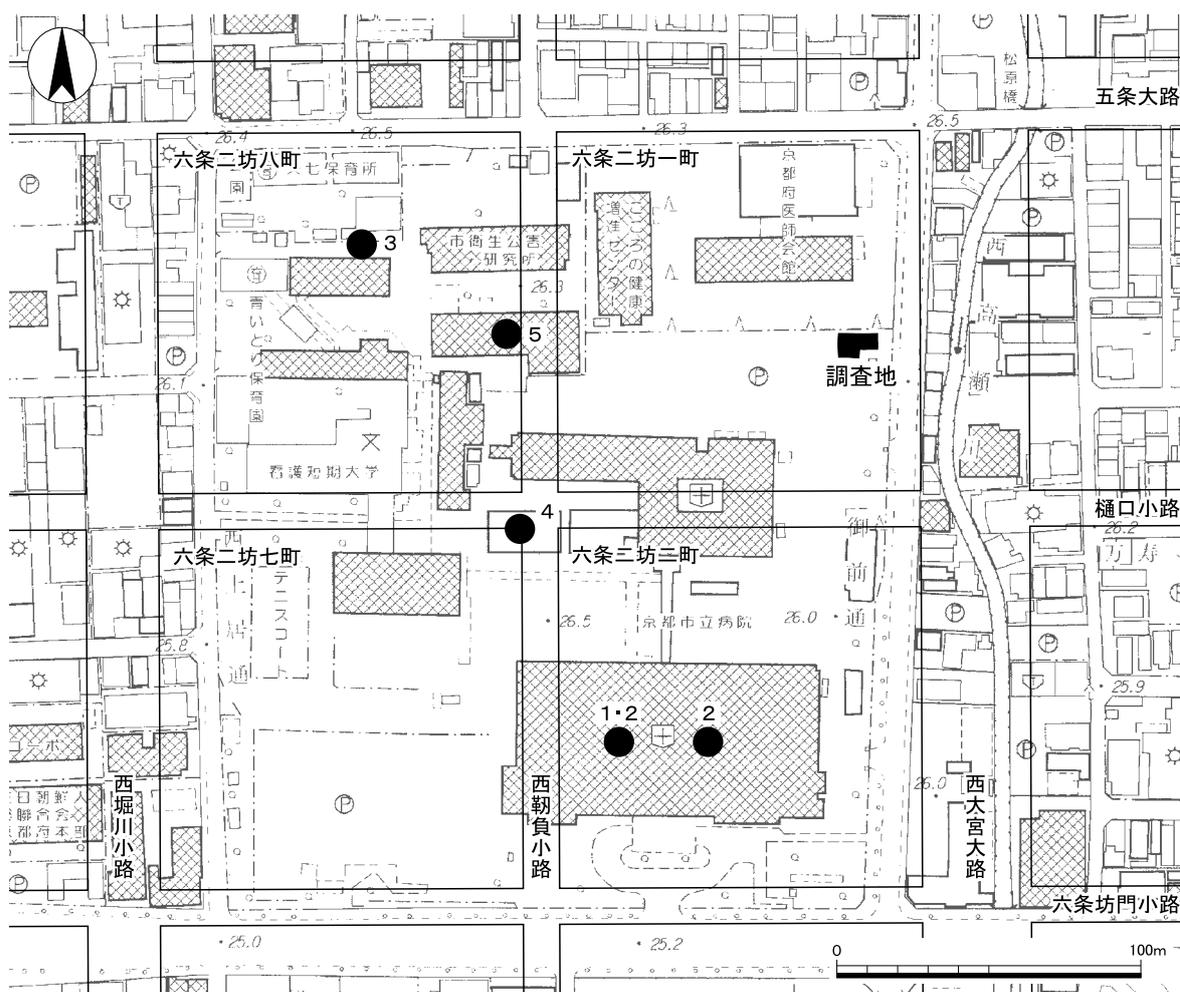


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

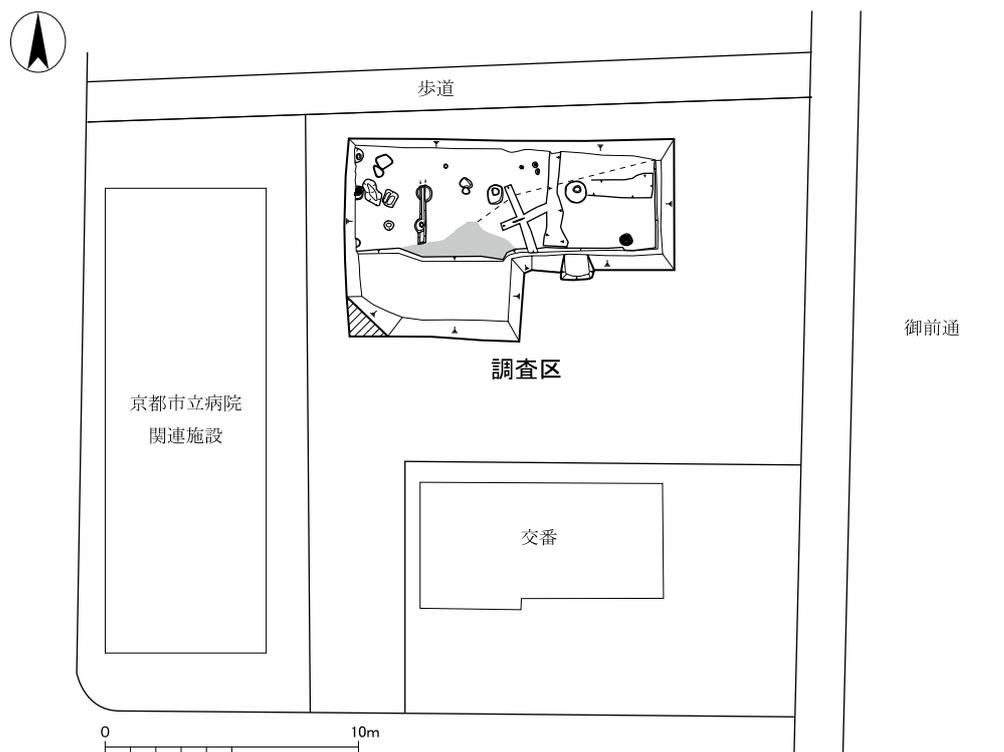


図2 調査区配置図 (1 : 300)



図3 調査前全景 (東から)



図4 作業風景 (西から)

調査区南半には現地表面から約1.3mの深度で東西方向の埋設管があることが判明した。このため、調査区南半の大部分が攪乱であることが明らかになり、この部分を調査区から除外し、北半部を中心に人力で遺構検出を開始した。検出した主な遺構は、平安時代前期の東西方向の掘立柱列である。また、集石土坑2基を検出した。さらに同一面で、調査区北東から南西方向にかけて平安時代以前の流路状遺構も確認した。流路状遺構と地山との関係を明らかにするため、調査区中央に断割を入れた後、埋め戻し、機材搬出などの作業を7月6日に終了した。

なお、調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、当事業における検証委員である龍谷大学の國下多美樹教授の視察も受けた。

## 2. 位置と環境

### (1) 歴史的環境と立地

調査地は、右京六条二坊一町の東部にあたる。敷地外の東側には西大宮大路が推定され、北側の五条大路と南側の樋口小路の中間に調査地が位置する。四行八門制では一町の東一行、北五・六門にあたる。

### (2) 既往の調査（図1）

周辺の調査として、二町では1988年の試掘調査（1）と同年の発掘調査（2）がある。試掘調査では、中世の小溝群と平安時代中期の遺物包含層を確認している<sup>1)</sup>。また、発掘調査では、第1調査区で弥生時代の溝1条、平安時代の掘立柱建物跡3棟、西鞠負小路の東築地の外溝と内溝、中世の建物1棟以上と東西溝1条を確認している。第2調査区では平安時代前期の掘立柱建物1棟、井戸、土坑を確認している<sup>2)</sup>。

二町と七町間では1978年に発掘調査（3）が行われている。同調査では、西鞠負小路と樋口小路に関する条坊側溝が良好な状態で検出された<sup>3)</sup>。また、八町でも1978年に発掘調査（4）が実施されている。同調査では中世の小溝や落ち込みを確認したのみにとどまる<sup>4)</sup>。

八町と一町間では1976年に発掘調査（5）が行われている。同調査では、西鞠負小路とその両側溝、築地と考えられる柱穴列が検出されている<sup>5)</sup>。

#### 註

- 1) 「昭和63年度試掘・立会調査一覧表」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 2) 「平安京右京六条二坊1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 3) 「平安京右京六条二坊七町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 4) 「平安京右京六条二坊八町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 5) 「平安京右京六条二坊八町」『昭和51年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序

基本層序は、地表下約0.4mまで現代の整地盛土層、盛土下に中世以降の厚さ約0.2mの耕作土と床土が残存する。耕作・床土下は褐色砂泥層の地山となり、この上面で平安時代から中世の遺構を検出した。調査区南半は、表土直下から埋設管設置のために大きく攪乱を受けていたが、調査区北東部から南東部にかけて平安時代以前の流路を確認した。遺構検出面には一部砂礫が表出していたが、平安時代にはそれを褐灰色粘質土で整地することにより（図7）、本調査で検出した構造物を構築したものと考えられる。

#### (2) 遺構の概要

検出した主な遺構は、中世のピット群、平安時代前期の東西方向の掘立柱列、集石土坑2基などである。さらに同一面で、調査区北東から南西方向にかけて平安時代以前の流路状遺構も確認した。

#### (3) 遺 構

##### 中世

ピット16～18 調査区中央で検出した。径0.15～0.2m、深さ約0.7mで円形を呈する。遺物は認められない。

ピット21 調査区西部で検出した。径約0.15m、深さ約0.7mで円形を呈する。遺物は認められない。

##### 平安時代前期

掘立柱列（図8） 調査区北半で掘立柱列を検出した。掘立柱は3基からなる。東から、柱穴22は径約0.85m、深さ0.15mの円形を呈する。柱痕跡は不定形を呈し、最大径0.26m、深さ0.12mを測る。柱穴15は約0.6m×0.5m、深さ0.1mの隅丸方形を呈する。柱痕跡は不定形を呈し、最大径0.3m、深さ0.1mを測る。柱穴12は径約0.7m、深さ0.2mの円形を呈する。柱痕跡が認められたが、後世の溝状の攪乱をうけており平面形は不明である。深さは0.06mを測る。柱間は柱穴22－15間

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代以前	流路状遺構	
平安時代前期	掘立柱列、集石土坑5・19、土坑2・4・6～10・13・14、柱穴1・11	
中世	ピット16～18、ピット21	

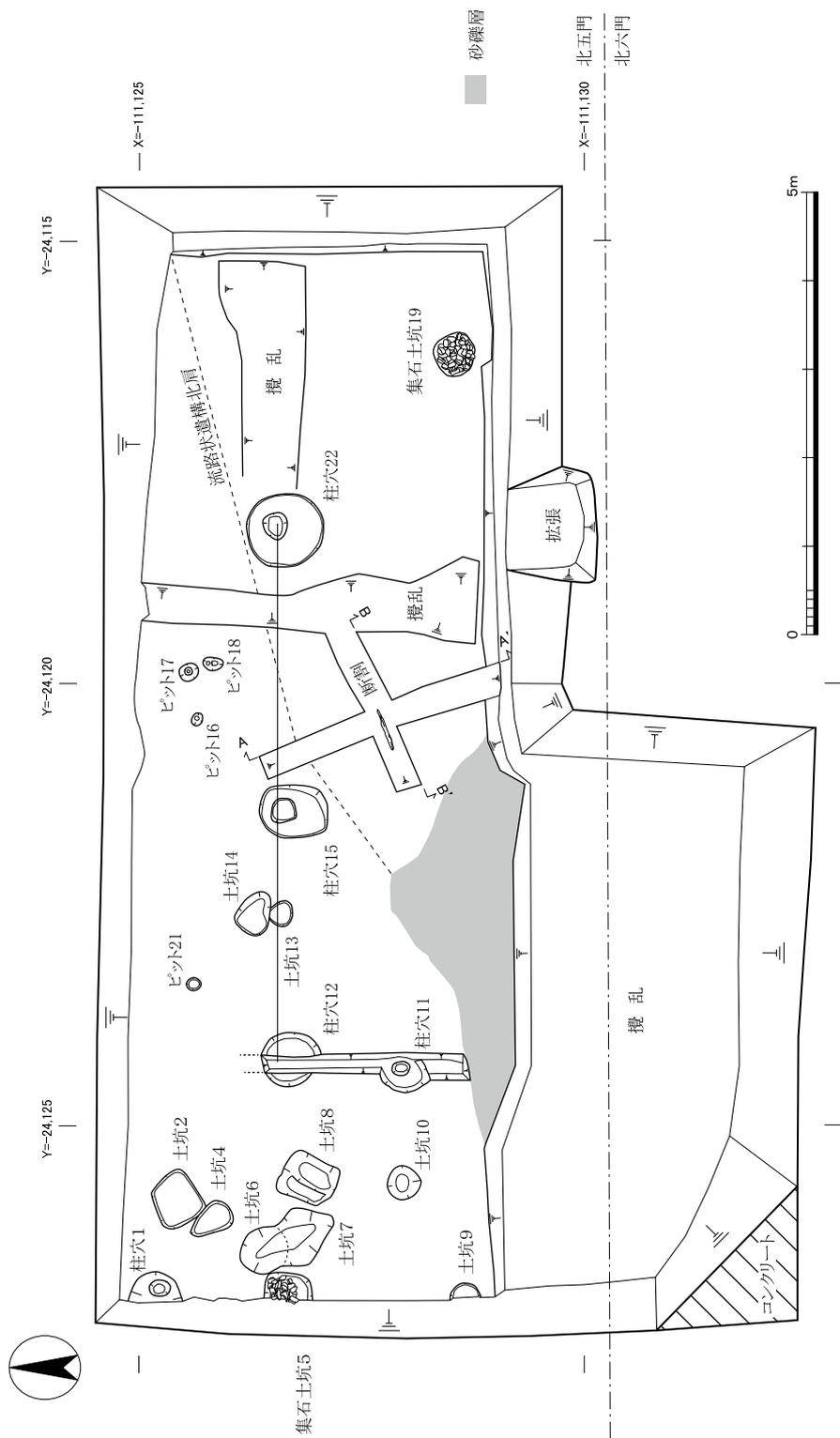


図5 遺構平面図 (1 : 80)

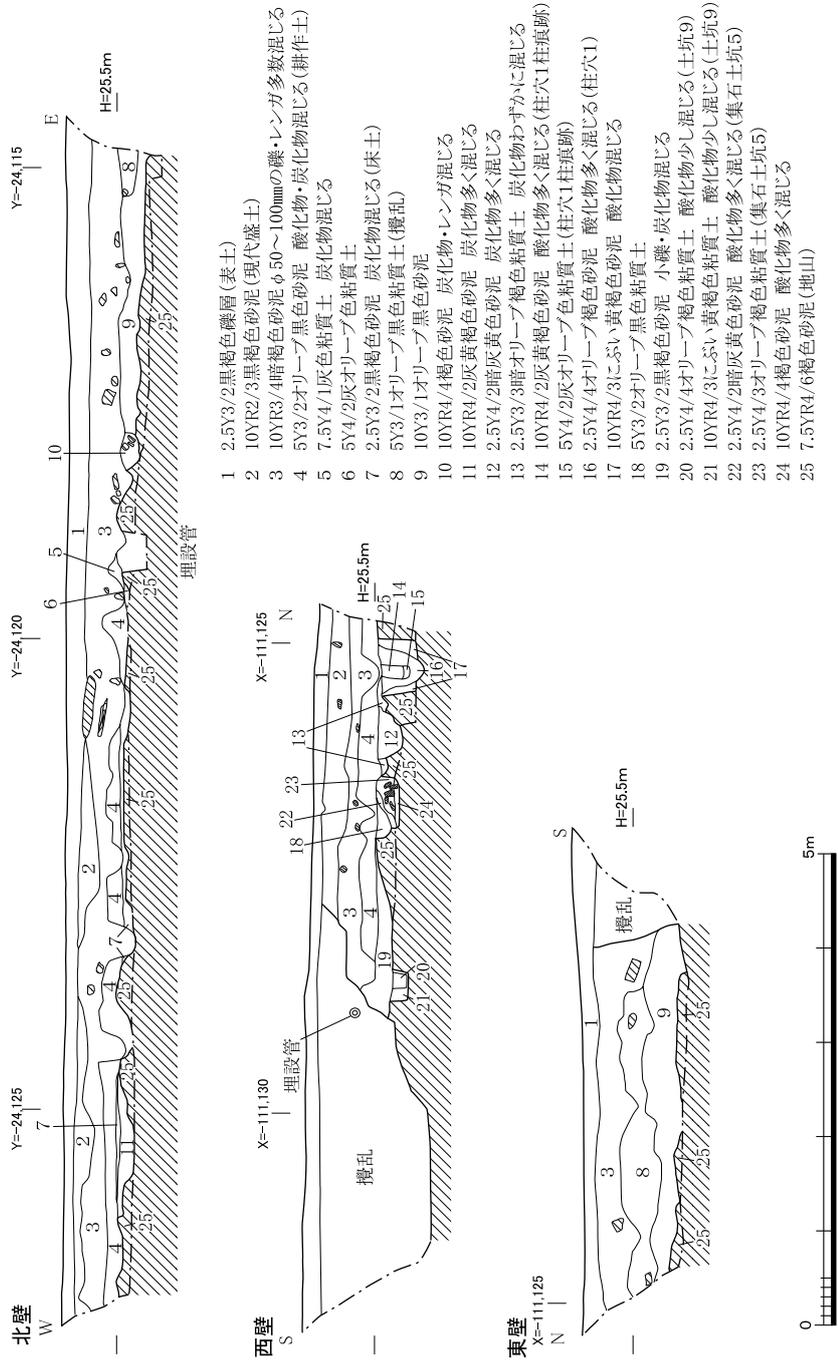


図6 調査区北壁・西壁・東壁断面図(1:80)

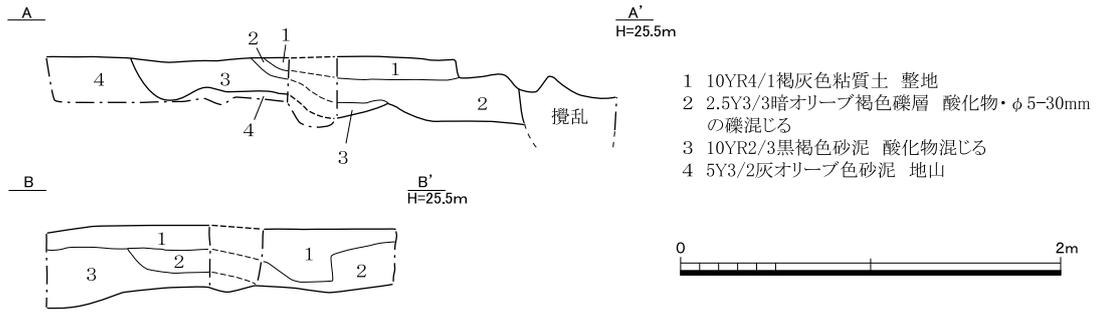


図7 断割断面図 (1:40)

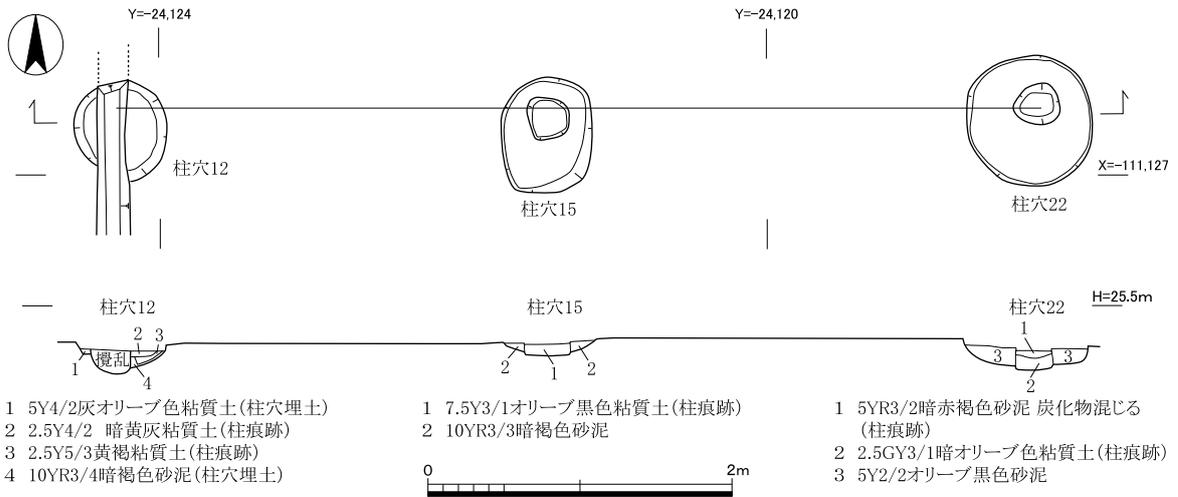


図8 掘立柱列実測図 (1:50)

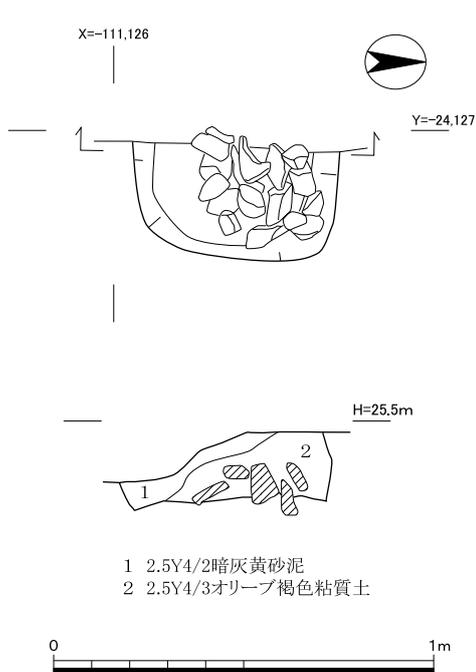


図9 集石土坑5実測図 (1:20)

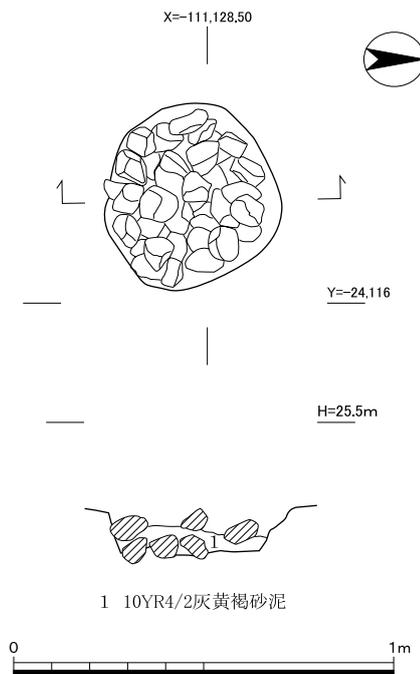


図10 集石土坑19実測図 (1:20)

が10尺、柱穴15－12間が9尺と不等間である。柱穴22については、調査区東端の断割や攪乱部分で同柱以東の掘立柱についても検出を試みたが確認できなかった。また、柱穴22から南へ柱間10尺の地点へ拡張して調査を行ったが、埋設管設置の際に大きく攪乱を受けており、遺構は確認できなかった。

**集石土坑5**（図9、図版1－2） 調査区西端で検出した。他の土坑群に対し検出レベルがやや高く、少なくとも前述する掘立柱列には伴わないと考えられる。径約0.5m、深さ0.25mで隅丸方形を呈する。瓦の小片が出土した。

**集石土坑19**（図10、図版2－1） 調査区東部で検出した。集石土坑5同様、重機掘削後すぐに確認できており、他の遺構と比較してやや検出レベルが高い。径約0.5m、深さ0.22mで円形を呈する。土師器の小片が出土した。

**柱穴1** 調査区西端で検出した。径約0.6m、深さ0.45mで円形を呈する。土師器・須恵器・緑釉陶器の小片が出土した。

**土坑2** 調査区西部で検出した。一辺約0.5m、深さ0.15mで隅丸方形を呈する。土師器・須恵器の小片が出土した。

**土坑4** 調査区西部で検出した。径約0.5m、深さ0.15mで楕円形を呈する。土師器・須恵器の小片、緑釉陶器の高台部と段皿の小片が出土した。

**土坑6** 調査区西部で検出した。土坑7と重複する。径約0.55m、深さ0.2mで円形を呈する。土師器・灰釉陶器の小片が出土した。

**土坑7** 調査区西部で検出した。土坑6と重複する。径約0.5m、深さ0.15mで不定形を呈する。遺物は認められない。

**土坑8** 調査区西部で検出した。一辺約0.5m、深さ0.15mで隅丸方形を呈する。土師器の小片が出土した。

**土坑9** 調査区西部で検出した。径約0.35m、深さ0.17mで円形を呈する。黒色土器の小片が出土した。

**土坑10** 調査区西部で検出した。径約0.40m、深さ0.1mで円形を呈する。土師器・須恵器・黒色土器の小片が出土した。

**柱穴11** 調査区西部で検出した。径約0.55m、深さ0.15mで円形を呈する。柱痕跡と掘形から土師器の小片、柱掘形から須恵器小片が出土した。

**土坑13** 調査区中央で検出した。土坑14とわずかに重複する。径約0.25m、深さ0.5mで円形を呈する。遺物は認められない。

**土坑14** 調査区中央で検出した。土坑13とわずかに重複する。径約0.5m、深さ0.8mで楕円形を呈する。土師器・須恵器の小片が出土した。

## 4. 遺物

### (1) 遺物の概要

遺物は整理箱で1箱出土した。内訳は土器・陶磁器類、瓦類であるがいずれも小片である。遺物は平安時代前期から中世のものがほとんどである。また、近世以降の陶磁器もわずかに含まれる。

### (2) 土器類（図版2-2）

出土した遺物の多くは小片であるため、細かな時期の特定には至らないが、平安時代前期に属する特徴的な出土遺物は次のとおりである。

1は須恵器甕の小片で、胴部外面に格子状タタキがある。柱穴11の柱掘形から出土した。2は緑釉陶器の高台部である。土坑4から出土した。3は灰釉陶器の小片である。土坑6から出土した。4は黒色土器の小片である。土坑9から出土した。

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代前期	須恵器、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、黒色土器、瓦		須恵器1点、灰釉陶器1点、緑釉陶器1点、黒色土器1点		
中世	土師器				
近世以降	陶磁器				
合計		2箱	4点(1箱)	0箱	1箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

## 5. まとめ

今回の調査では平安時代の右京六条二坊一町内の宅地利用の一端を知ることができた。調査区内では、平安時代以前に流路が存在し、その上面は褐灰粘質土によって平安時代前期に整地されていることが判明した。

また、掘立柱列を検出し、調査区東端の断割部や攪乱部分の土層観察から、検出した掘立柱列から東へは展開しないことが判明した。さらに調査区西端の集石土坑5の検出状況から、同遺構が西へ展開することは考えにくい。したがって、同遺構は北へ展開する南北棟の掘立柱建物跡の一部である可能性が高いとしておきたい。さらにこの建物の立地は、流路跡を整地した脆弱な地盤を避けたものとも考えられる。

集石土坑5や19はその規模や集石の状況から、祭祀遺構と想定されている史跡賀茂御祖神社境内<sup>1)</sup>の集石に類似する。しかし、集石遺構のみの検出であり、祭祀遺構と断定する要素に乏しいため、可能性を指摘するにとどめる。

### 註

- 1) 『史跡賀茂御祖神社境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-12 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年、『糺の森整備報告書』賀茂御祖神社 2010年

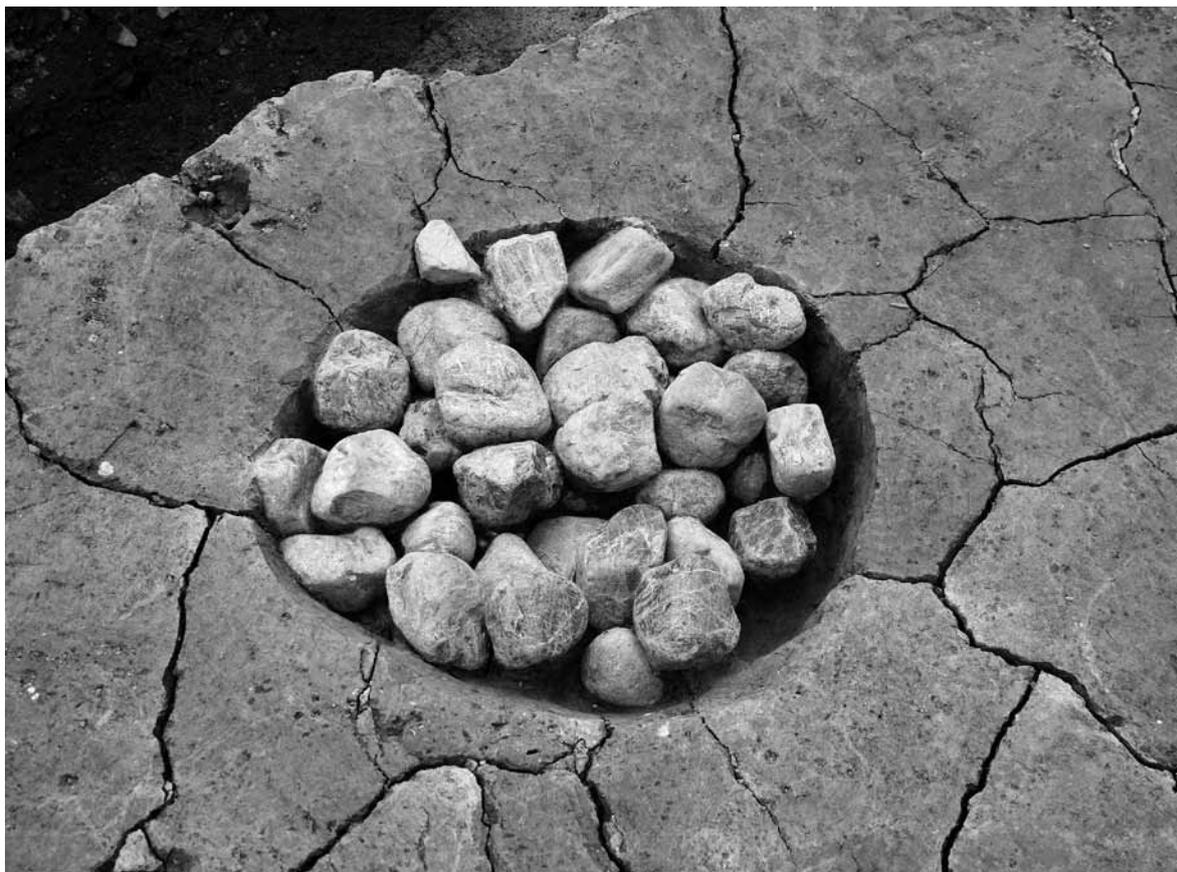
# 圖 版



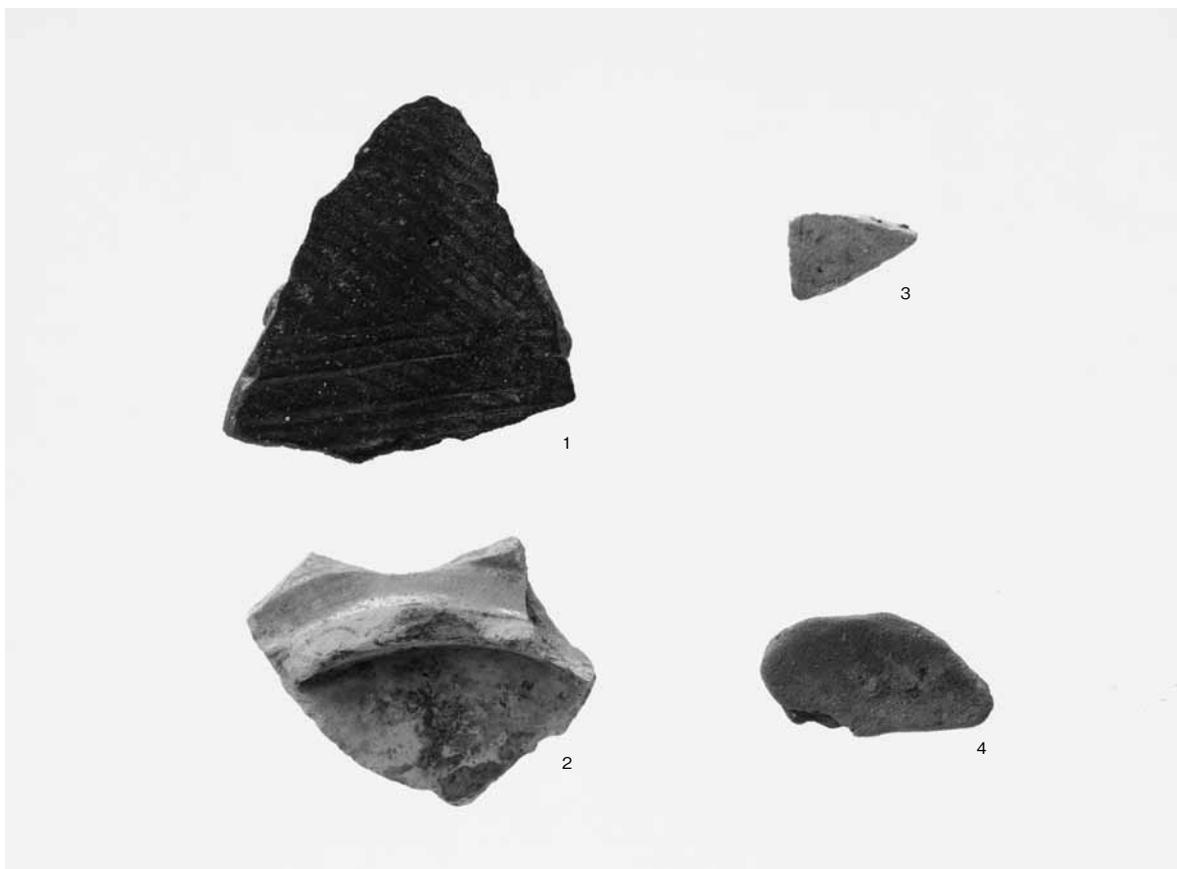
1 調査区全景（東から）



2 集石土坑5（東から）



1 集石土坑19（北東から）



2 土器類

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうろくじょうにぼういっちょうあと							
書名	平安京右京六条二坊一町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2015-3							
編著者名	金島恵一・関広尚世							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2015年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしなかがきょうく 京都市中京区 みぶひがしたかだちょう 壬生東高田町  1番地の2	26100	1	34度 59分 53秒	135度 44分 09秒	2015年6月 15日～2015 年7月6日	104㎡	消防出張所 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代以前	流路状遺構			調査区南半には流路状遺構があり、平安時代前期に整地されている。		
		平安時代前期	掘立柱列、集石土坑、土坑	須恵器、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、黒色土器				
		中世	ピット	土師器				
		近世		陶磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-3

## 平安京右京六条二坊一町跡

発行日 2015年9月30日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961